様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 ２３ 日現在

機関番号：３２６４７
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2017～2021
課題番号：１７Ｋ１８１２９

研究課題名（和文）放課後等デイサービスの看護師役割に関する研究

研究課題名（英文）Study on nurses'roles in after school daycare services

研究代表者
藤田　藍津子（Fujita, Atsuko）

東京家政大学・健康科学部・講師

研究者番号：７０７２１８５１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：　放課後等デイサービス看護師を対象とした全国実態調査では、放課後等デイサービス看護師としての経験年数が少ない中で、多岐にわたる看護実践を行い、療育・看護技術に関する知識・経験不足、家族支援の難しさ、研修機会の少なさ、多職種や事業所同士の連携の必要性を述べていた。看護師の困難に関する調査では、知識や技術、連携に関する困難を抱えていた。しかし、看護実践においては、発達、アセスメント、セルフケア、医療安全、倫理的側面への意識を重要視していた。
　看護実践の枠組みをもとに、放課後等デイサービスの看護師の役割に関するガイドラインの大枠を捉え、看護実践への姿勢、情報、知識、技術、連携の視点で試案した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　ガイドラインによって、看護師一人ひとりが経験値で行っていた支援の質が保たれ、どのような支援が必要か等の支援方法が明確になる。その結果、本来の放課後等デイサービスの役割である、発達支援、家族支援へつながると考えられる。したがって、本研究は看護師の支援の指標となるだけではなく、看護師の支援必要とする学齢障害児が、放課後という地域における居場所の保障と、発達の保障をすることが豊かな人格形成につながり、意義があると考える。

研究成果の概要（英文）：A national survey conducted on after school daycare nurses revealed that these nurses performed a wide range of nursing practices while having few years of experience as an after school daycare nurse. Furthermore, survey responses indicated that nurses lack knowledge and experience in medical, educational, and nursing skills, face the difficulty of family support, have limited training opportunities, and are burdened by the need for coordination among multiple disciplines and business locations. Responses to questions on the difficulties nurses face revealed that the respondents face difficulties in relation to knowledge, skills, and coordination. In nursing practices, however, awareness of development, assessments, self-care.Based on a nursing practices framework, an outline for guidelines on the roles of nurses in after school daycare services was obtained, and a draft was made with a focus on attitudes towards nursing practices, information, knowledge, skills, and coordination.

研究分野：小児看護学

キーワード：放課後等デイサービス　看護師　ガイドライン

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

放課後等デイサービスとは、2012 年の児童福祉法の改正により創設された、学齢障害児の放課後等の活動支援を目的としたわが国初の個別給付による事業である。小・中・高校に通う障害児が放課後(夏休み等も含む)に生活能力向上の訓練、社会との交流を図る場所である。

2015 年 3 月の時点で全国に 5815 の事業所があり、サービス内容も多様であるため、具体的に、「放課後等デイサービスはこうあるべき」と示すことは困難な状況である。

全国事業所のうち、約 14%の事業所に看護師の常勤職員が配置され、非常勤職員の看護師を含めるとさらに多くの看護師がケアを行っていると考えられる。看護師の実践内容は、健康管理、服薬管理、重症心身障害児の医療的ケア(吸引、導尿等)、送迎の付添とされ、預かり保育が中心の中で処置・ケアへの対応へ留まり、本来の目的である発達支援、家族支援への役割が果たせない現状にある。したがって、具体的な支援内容の明確な基準がない中で、戸惑いながら、目の前にある必要な処置だけを行っているのが現状である。

以上のような現状から、放課後等デイサービスにおいて支援を行う看護師の現状把握と、支援につながるガイドラインの作成が必要と考えた。

２．研究の目的

本研究では、障害児が本来子どもとして育つ地域における学齢障害児のケアを行う看護師に着目する。特に放課後は、障害児にとって、仲間関係や人格を形成する重要な時間である。放課後に適切なケアを受けることは、二次障害の予防となり、放課後の居場所の保障、そして豊かな人格形成につながると考える。これらを踏まえ、障害児放課後等デイサービスに勤務する看護師のための、支援ガイドラインの作成を目的とした。

３．研究の方法

① 全国の放課後等デイサービスの支援に関する現状と課題を明らかにするため、国内文献検討をした。文献検索は、医学中央雑誌 Web 版 ver.5 と CiNii で行い、キーワード放課後等デイサービス」「放課後活動」「放課後・休日支援」「障害児」「現状」「課題」「支援」をかけあわせた。

② 放課後等デイサービスに従事する看護師が行っている支援に関する実態調査を、全国の放課後等デイサービスの看護師を対象に質問紙調査にて行った。全国の事業所から、医療的ケアを実施している事業所、重症心身障害児指定を受けている事業所、看護師が配置されている事業所、（事業所名・住所は各都道府県のホームページに記載されている）約 1000 箇所を、無作為抽出し、郵送調査法にて実施した。

③ 実態調査の結果をもとに、看護師を対象に半構造化面接によるインタビュー調査を実施した。全国の放課後等デイサービスの看護師 15 名を対象に、1）普段の支援において、困っていることはあるか、大変に思うこと。2）援助の中で喜び、やりがい、大事にしていること。3）支援を充実させるために、何か活用するなら、どのようなことがあるといいか（知りたいこと、関心のある事、研修システムについて）。という 3 点について半構造化面接を実施した。

④ 多職種連携や障害児を取り巻く地域支援の言所を知るために、イギリスのロンドン西部

にある障害児施設 Beyond Autism のオンライン視察を行った。

⑤ 文献検討、全国調査、インタビュー調査結果から得た結果をもとに、『放課後等デイサービスの看護師版支援ガイドライン』の試案を作成した。

４．研究成果

① 文献検討では、8 文献が該当し、質問紙調査が 7 件、インタビュー調査が 1 件であった。対象は、事業所：3 件、利用している家族：3 件、事業所と家族：1 件であった。質問紙調査では、事業内容、サービス利用状況、家族構成、連携等が調査されていた。インタビュー調査は、放課後等デイサービスを利用することによる、母親の障害受容過程の調査であった。放課後等デイサービスの現状、課題、専門性、提言内容を中心に分析した結果、{（　）内は文献数を示す。}「専門職の不足（5)」「支援の質の問題(4)」「医療的ケア児への支援不足(3)」「職種・機関との連携不足(2)」「保護者の就労保障(2)」「家族支援の必要性(2)」「送迎の問題(2)」「利用時間・回数の制限(2)」「地域差(1)」であった。

② 質問紙の調査結果では、宛先不明が 27 事業所、同意が得られた事業所は 977 箇所中、87 事業所（回収率 8.9%）の看護師 145 名であった。145 名が属している放課後等デイサービスの運営は、社会福祉法人 64 人(44.1%)、ＮＰＯ法人 38 人(26.2%)、会社組織 34 人(23.4%)、自治体 4 人(2.7%)、医療法人 4 人(2.7%)、一般社団法人 1 人(0.6%)であった。看護師配置数は平均 4.2 人で、放課後等デイサービスにおける勤務年数の平均は 2.8 年であった。サービス利用者は平均 8.1 人/日であった。重症心身障害児を受け入れている事業所の看護師は、受け入れている 120 人(82.7%)、受け入れていない 25 人(17.2%)であった。業務内容の調査では、医療的ケア 113 件(77.9%)、送迎 95 件(65.5%)、生活援助 86 件(59.3%)、保護者の相談 73 件(50.3%)、安全管理 72 件(49.6%)、発達支援 53 件(36.5%)、個別支援計画を立てる 44 件(30.3%)、他部門との調整 3 件(2%)、勉強会の開催 2 件(1.3%)であった。自由記述「看護師の役割と勤務内容に関する課題」への記述は、療育に関する知識不足、家族支援の難しさ、看護技術習得の機会の少なさ、研修機会の少なさ、多職種や事業所同士の連携の必要性について、述べられていた。

③ 放課後等デイサービスの管理者、看護師 15 名へのインタビュー調査では、インタビュー結果について内容分析を行った。放課後デイサービスの看護師が抱える問題点は、情報不足、知識不足、看護技術の習得の機会の少なさ、相談相手がいない等の困難感を抱えていることが明らかになった。特に放課後等デイサービス看護師の困難に関する内容では、【障害児支援に関する知識の習得の困難】＜小児看護の知識や技術＞＜障害・疾患に関する情報＞＜障害児支援に関わる職種に関する知識＞＜医療的ケアの機械・物品メーカーに関する知識＞【体調不良時の対応の難しさ】＜急変時やいつもと違う時の対応＞＜家族が体調不良で利用児を受け入れる場合の受け入れ判断の対応＞【多職種連携の促しの難しさ】＜利用児のかかりつけ小児科医の指示や方針の情報共有＞＜職員同士の引継ぎ方法＞＜多職種との情報共有・連携＞【家族との関係づくりの困難】＜障害児を育てる親との関係づくり＞＜家族とのケアの方向性に関する対 応と共有＞【他事業所との連携の難しさ】＜他事業所の看護師との連携＞＜利用児が利用する訪問看護との情報共有、連携＞【研修の少なさに対する要 望】＜障害児や他職種の実践内容に関する知識の習得＞＜医療的ケアの看護技術の習得＞＜他事業所とのネットワーク作り＞という 6 つの困難が明らかになった。放課後等デイサービスの看護師は、放

課後という限られた時間の中で様々な困難を抱えながら、看護を実践している。

④ イギリスのロンドン西部にある障害児施設 Beyond Autism のオンライン視察を行った。Beyond Autism は、自閉症の人たちが教育経験、就労のトレーニング、家族や支援を通じて、選択した生活を送ることができるようにすることを目的とした非営利団体である。視察を通して，Beyond Autism に通う子どもや家族への支援、日常生活への支援、多職種がそれぞれ専門性を理解し、チーム全体が保健専門家として互いに認識し機能していたこと、等の点において，医療制度が異なる日本でも取り入れられる事柄や課題を見出せた。また、イギリスにおける障害児支援の専門性の高さを実感したことで、専門職に対する認識を深める機会であった。

⑤ 上記より、放課後等デイサービス看護師を対象とした全国実態調査では、放課後等デイサービス看護師としての経験年数が少ない中で、多岐にわたる看護実践を行い、療育・看護技術に関する知識・経験不足、家族支援の難しさ、研修機会の少なさ、多職種や事業所同士の連携の必要性を述べていた。看護師の困難に関する調査では、知識や技術、連携に関する困難を抱えていた。しかし、看護実践においては、発達、アセスメント、セルフケア、医療安全、倫理的側面への意識を重要視していた。

看護実践の枠組みをもとに、放課後等デイサービスの看護師の役割に関するガイドラインの大枠を捉え、看護実践への姿勢、情報、知識、技術、連携の視点で試案した放課後等デイサービスの看護実践の枠組みを作成した（表 1）。看護実践の枠組みをもとに、放課後等デイサービスの看護師の役割に関するガイドラインの大枠を捉え、看護実践への姿勢、情報、知識、技術、連携の視点で試案した。

表 1　放課後等デイサービスの看護の実践の枠組み

項目	看護実践の内容
看護実践のへの姿勢	・身体的なアセスメントを日々行う ・子どもの小さな反応をも、捉える ・医療的な側面に着目して、安全安楽を保障する ・子どもの発達を捉える ・家族を理解し、信頼関係を築いて支える ・倫理的な側面を重要視する ・セルフケアの視点を取り入れる
情報	・利用する子どものかかりつけ医との情報収集と情報交換 ・学校、訪問看護、家族からの情報収集と情報交換 ・事業所内多職種同士の情報の共有 ・事業所内の記録を用いた情報の共有
知識	・療育の知識をもって子どもと関わる ・遊びの知識を取り入れる ・看護技術に関する知識を常に更新する ・感染症対策に関する最新情報を得る ・知識を得る研修会に参加する
技術	・メーカーが異なる医療機器の使い方を習得する ・他の職種に安全に関する技術を周知する ・看護技術の習得の機会を得て、最新の看護技術を身に付ける（医療的ケア、感染症対策、発達の促し等） ・技術を習得する研修に参加する

連携	・事業所内の多職種連携、行政、学校、訪問看護、事業所同士、かかりつけ医、嘱託医、家族と連携する ・研修への参加を通じて、同職種、多職種、事業所同士のつながりを得る

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 藤田藍津子、葛原誠太	４．巻 22
２．論文標題 イギリスにおける障害児支援の実際 ―Beyond Autism のオンライン視察から―	５．発行年 2022年
３．雑誌名 東京家政大学附属 臨床相談センター紀要	６．最初と最後の頁 117-123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 ―

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 藤田藍津子・福井郁子
２．発表標題 放課後等デイサービスにおける看護師の役割 と課題 ―テキストマイニングによる自由記述の分析―
３．学会等名 第50 回日本看護学会―ヘルスプロモーション―学術集会
４．発表年 2019年

１．発表者名 藤田藍津子
２．発表標題 放課後等デイサービスの看護師実態調査―ケアの特徴と課題―
３．学会等名 第38回日本看護科学学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 藤田藍津子
２．発表標題 放課後等デイサービスにおける現状と課題に関する文献検討
３．学会等名 第37回日本看護科学学会学術集会
４．発表年 2017年

１．発表者名 藤田藍津子、齋藤正子
２．発表標題 放課後等デイサービスにおける実践に対する看護師の困難の検討
３．学会等名 日本小児看護学会第32回学術集会
４．発表年 2022年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関